

## &lt;代表値&gt;

牛乳および乳製品自給率：67%（うち飲用生乳自給率：100%）

## &lt;代表値のもととなる資料&gt;

自給率に関する情報源として、農林水産省が毎年公表している「食料自給率レポート」と「食料需給表」がある。「食料自給率レポート」では、食料自給率に関する情報や食料需給表が掲載されている。「食料需給表」では、年度別の食料自給率や各食品の国内生産量、輸出入量、在庫量、国内消費仕向量（飼料用、種子用、加工用、減耗量、粗食料）、純食料、1人1日あたり供給量が示されている。食料自給率とは、食料消費に対して国産でどの程度賄えているかを示す指標であり（具体的には、国内消費仕向量に占める国内生産量の割合）、重量ベースの品目別自給率、カロリーベースの総合食料自給率、金額ベースの総合食料自給率で表される。

代表値は、2004（平成16）年度の自給率としたが、「平成17年度 食料需給表」では詳細な食品項目の確定値が得られないため、「平成16年度 食料需給表」の「品目別自給率の推移」に示されている値を用いた。2004（平成16）年度における牛乳および乳製品の自給率は、重量ベースで67%となっている。また、牛乳および乳製品のうち飲用生乳における自給率を食料需給表のデータより計算すると100%となった。下表に1960（昭和35）年から10年ごとの自給率を示した。そのほか、「平成15年度 食料自給率レポート」には、飼料自給率を考慮した場合の畜産物自給率（カロリー自給率）も掲載されている。牛乳および乳製品における飼料を考慮した自給率は、牛乳および乳製品の自給率に乳用牛の飼料自給率（42.3%）を乗じて計算されたものである。2003（平成15）年度における純国産牛乳および乳製品自給率は29%となっている。

牛乳および乳製品自給率（%）

	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2004年
牛乳および乳製品（品目別自給率 <sup>1)</sup> ）	89	89	82	78	68	67
うち飲用生乳 <sup>2)</sup> （品目別自給率 <sup>1)</sup> ）	100	100	100	100	100	100

出典：農林水産省（2006a, 2006b）

1) 品目別自給率とは、品目別の重量ベース自給率である。

2) 飲用生乳自給率は、食料需給表の飲用向け生乳の国内生産量と国内消費仕向量から計算した。

## &lt;数値の代表性&gt;

◇ 代表値の信頼性：高

食料自給率は、国内生産量や輸出入量等を考慮しており、信頼性は高いと判断できる。

◇ 代表性に関する情報

国内生産量と国内消費仕向量（国内生産量+輸入量-輸出品-在庫の増加量（または+在庫の減少量））から算出されている。

◇ 入手できた資料の数

上記の3資料のみである。

### <引用文献>

農林水産省 (2006a), 我が国の食料自給率とその向上に向けて－平成 16 年度 食料自給率レポート－,  
[http://www.kanbou.maff.go.jp/www/jikyu/jikyu01\\_16.html](http://www.kanbou.maff.go.jp/www/jikyu/jikyu01_16.html) (アクセス日：2006.11.24).

農林水産省 (2006b), 食料需給表 (平成 16 年度版) 詳細,  
<http://www.kanbou.maff.go.jp/www/fbs/fbs-top.htm> (アクセス日：2006.11.24).

農林水産省 (2004), 我が国の食料自給率－平成 15 年度 食料自給率レポート－,  
[http://www.kanbou.maff.go.jp/www/jikyu/jikyu01\\_15.htm](http://www.kanbou.maff.go.jp/www/jikyu/jikyu01_15.htm) (アクセス日：2006.11.24).

### <更新履歴>

2007.3.30 / 代表値のデータを更新しました